

令和3年度文部科学省「寄附フォーラム」

最新動向を捉えた寄付募集活動 ～コロナ禍の渉外活動～

公益社団法人 Japan Treasure Summit
事務局代表 吉田房代

info@treasure-summit.jp

Japan Treasure Summit

公益社団法人Japan Treasure Summit(JTS)紹介

- 設立：2009年10月26日
- 代表理事：小宮山 宏 三菱総合研究所理事長／東京大学 第28代総長
- 2012年より高等教育・研究機関／芸術活動団体等などの寄付・基金担当者対象に「ファンドレイザーフォーラム」を開催
- 2019年度文部科学省委託事業「我が国の大学における寄附金獲得に向けた課題に係る調査研究」を実施
- 2020年2月 公益社団法人へ移行し、特定公益増進法人の認可を受ける

【JTSの目指す方向性と役割】

寄付文化の醸成⇒寄付募集活動・事業の拡大
⇒寄付が集まる（お金が動く）・課題が解決できる

公益社団法人Japan Treasure Summit 事務局代表 吉田房代

1989年奈良教育大学心理学科卒業。同年、株式会社リクルート入社、2006年東京大学渉外本部ディレクターに就任。東京大学基金（大学エンダウメント）渉外担当として法人及び個人寄付募集の責任者として130周年記念募金目標(130億円)達成に貢献。2009年「一般社団法人（現：公益）Japan Treasure Summit」を設立。大学や研究機関などの寄付・基金を担う人材育成、寄付募集戦略が学べる研修セミナー「ファンドレイザーフォーラム」を主催。講演も多数実施。2015年ー2018年文部科学省主催「寄附フォーラム」コーディネーター、2019年／2020年登壇。令和元年度文部科学省委託事業「我が国の大学における寄附金獲得に向けた課題に係る調査研究」主任研究員。

ファンドレイザーフォーラムとは

- 高等教育・研究機関／芸術活動団体等の寄付獲得拡大のための人材育成実践型プログラム。※渉外専任担当（ファンドレイザー）の育成。
- 全国の大学や公益法人、国公立や私立といった枠を超えて、学術芸術分野の寄付募集活動全体を設計できる人材の輩出を目指し、2012年度より研修プログラムを実施しています。2021年に第10期を迎えます。プログラムは实际的、実務的であることを基本方針とし、知識や情報の習得だけでなく、課題を発見・成形する力を培う機会を提供。
- 2021年も文部科学省後援事業として9月開催決定。

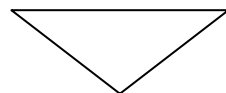


継続的・恒常的に寄付募集活動を実行するには

恒常的に寄付募集を実行する ※寄付募集活動を継続する



最新動向を捉えた寄付デザインを心掛け
寄付募集メニューを立案する



タイムリーであり機会を捉えた寄付募集メニュー
寄付したくなるコンテンツを立案&繰り返し依頼する

タイムリーな寄付募集メニューとは

➤ 緊急支援

- ・ 新型コロナウイルス
- ・ 災害

➤ 教育・学生

- ・ コンテスト、コンクール
- ・ スポーツ、文化

➤ 研究・研究者

- ・ 基礎研究、先端研究、産学連携、世界記録、賞

➤ キャンパス環境・施設設備

- ・ 記念館、図書館、食堂、博物館

➤ 地域連携・コミュニティー

- ・ 地域貢献、特色ある文化

※テーマ例

コロナ禍での寄付募集活動の傾向

～オンライン等を利用して、寄付募集活動を様々な工夫で実行～

◆ 渉外活動・ファンドレイザーの動き

- 緊急事態宣言下とそれ以外の期間によって、面談・訪問依頼の仕方が相手との関係性の属性により差異がある

< 関係性 >

面識なし

新規

オンラインのみでも成立可能
更にコミュニケーション・テーマを
深めるため後日訪問

面識あり

既存寄付者

更に支援が広がりやすい

面識あり

新規

初めての寄付に繋がり
やすい

コロナ禍での寄付募集活動の傾向

◆ 寄付募集部署の動き

- DM等の一斉アプローチは、ターゲットや時期を考慮して実施
 - 卒業生への支援依頼は、通常通り実施 ※経営者からの支援が顕著
 - 保護者(保証人)への支援依頼は、考慮して実施 ※時期やテーマ
- 対面でのイベント
 - 2020年は感謝の会(活動報告会)・遺贈セミナー等催しは中止
 - 一部オンラインで代替開催するところも
- 活動報告書は変わらず作成
- リサーチや渉外活動(寄付依頼)リストの整備
- 支援プログラムの企画・立案



配信の様子

<東京大学基金ホームページより>
「東京大学基金活動報告会2020 開催」

コロナ禍での寄付募集活動の傾向

● 2020年4~5月に「新型コロナウイルス感染症**緊急**対策基金」等の名称で寄付金募集をタイムリーに開始

- 経済的な理由で修学が困難な学生を支援するための修学支援
- オンライン授業等の学習環境整備支援
- 留学生への支援
- 附属病院への支援
- COVID-19研究プロジェクトの支援



<横浜市立大学基金ホームページより>

附属病院に新型コロナウイルス対策基金の募金箱を設置

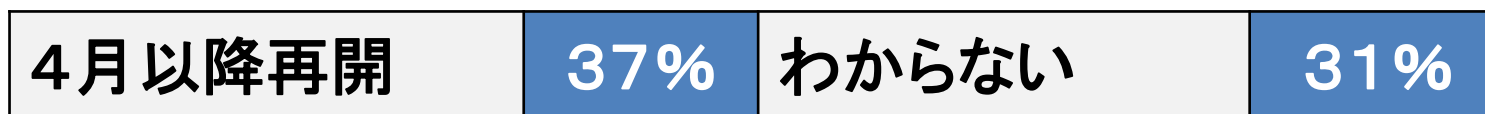
● 多くの大学が2021年度も継続して募集している

- これまでの寄付額・件数、寄付者からのメッセージをホームページに掲載
- 寄付金を受け取った学生からの感謝の言葉を掲載
- 名称から「緊急」をとり、「修学支援基金」「学生応援プロジェクト」として継続
- 年度初めに学長からの引き続き支援のお願いメッセージを掲載

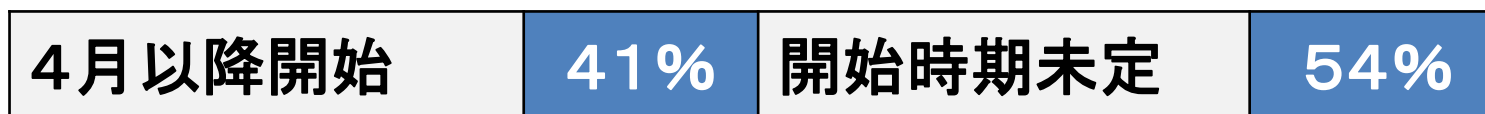
コロナ禍の海外大学涉外活動の取り組み

【米国】 寄付関連部署の全体的な動向

◆2021年4月以降オフィス再開について



◆2021年4月以降10人以上の対面イベント開催について

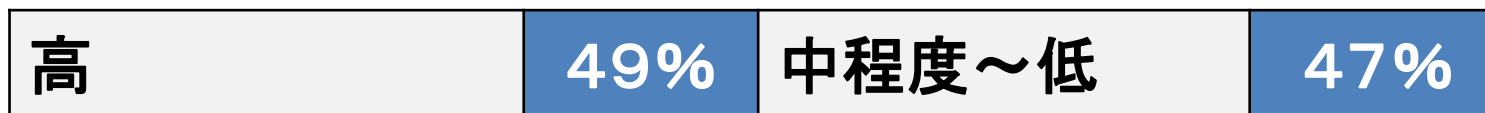


◆予算について



(※うち8%が35%以上の予算削減)

◆寄付募集活動への負の影響について



コロナ禍の海外大学涉外活動の取り組み

【米国】

カリフォルニア大学バークレー校

University of California, Berkeley



【基本情報】 (2021)

- 学部生数：30,799名
- 大学院生数：11,548名
- THE-TR 世界大学ランキング：第7位
- 同窓生数：約541,887名

◆2014年から10年間 過去最大のキャンペーン中

目標額：\$60億ドル(約6600億円) 現在75%まで到達

※2019-2020年度 \$939million / 1032.9億円 (1\$=110円)

◆新型コロナウイルス研究と学生支援を目的としたメニューで、
\$33million / 約36億円の寄付獲得

寄付者は約5000人。半数以上が初めてか数年ぶりに寄付をした人

◆ Equity and Inclusionを目的とした支援

2014年～2017年：\$15million VS 2018年～2021年：\$60million

約66億円の寄付獲得

コロナ禍の海外大学渉外活動の取り組み

【英国】

オックスフォード大学

University of Oxford

【寄付金獲得実績】

2019-2020年度 £316million 約489億円

◆ 新型コロナウイルス研究を目的とした基金が2020年4月に設立された

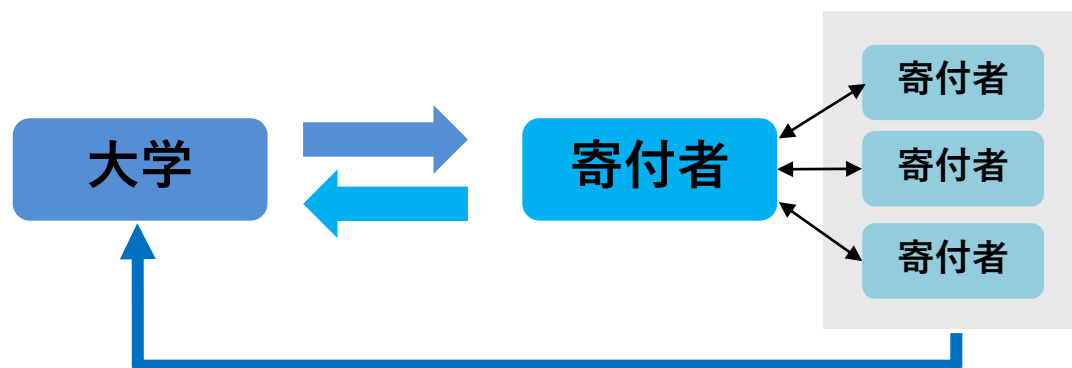
「COVID-19 Research Response Fund (CRRF)」

8月までに£8million(800万£) 約12億4000万円の寄付獲得



【基本情報】 (2021)

- 学部生数：11,955名
- 大学院生数：12,010名
- カレッジ数：39
- THE-TR 世界大学ランキング：第1位
- 同窓生数：約350,000名
(90ヶ国 150拠点)



◆ 「Ineos Oxford Institute for AMR Research (IOI)」
Ineos から£1億 (約154億円) の寄付により、最先端の薬剤耐性研究所が2021年1月に設立

コロナ禍の国内大学の取り組み

国立大学法人 京都大学

「民間ファンドによる大型奨学金プロジェクト： Create the Future Project（CFプロジェクト）」新設

建築家 安藤忠雄氏、株式会社ニトリホールディングスを始めとする企業、個人の方々からの寄付金を基金とし、経済的に困窮しながらも意欲ある学生を支援するCreate the Future Project（CFプロジェクト）を立ち上げ、2022年4月より奨学金の給付を開始。

CFプロジェクトは、高い向学心と研究マインドを有し、グローバルな活躍を志す京都大学の学生（学部、修士課程、博士課程）に対し、経済的な困窮や将来の不安を理由にその向学心を途絶えさせない経済的支援として、返済不要な奨学金の給付を行い、次世代を担う人材（創造的研究者・高度な専門能力を持つ者）を育成し、社会に輩出。

<国立大学法人京都大学ホームページより>

基金規模約25億円
10年間で1,200人程度への支給を目指す

まとめとして

今回ご紹介したケースでは、コロナ禍において国内外共に多くの大学が緊急支援策に取り組み寄付獲得を拡大しています。

寄付獲得の結果は渉外活動の量に正比例します。限られた時間の中で優先順位は何か、戦略を議論・立案し寄付募集活動に取り組むことは重要です。

トップを巻き込み、組織一丸となって寄付拡大に取り組みましょう。